

園外保育マニュアル



西東京市公立保育園

令和4年7月1日 改訂

目 次

- 1 園外保育目的・実施基準・・・・・・・・・・1
- 2 徒歩で移動する場合の配慮・・・・・・・・2, 3
- 3 乗り物を利用する場合の配慮・・・・・・・・4
- 4 事故及び災害時の対応・・・・・・・・・・5
- 5 怪我の状態や病状による対応・・・・・・・・6
- 6 日頃の備え・事故後の対応・・・・・・・・7
- 7 事前準備及び事務手続き・・・・・・・・・・8

別紙

- 園外保育実施計画書・・・・・・・・・・別紙1
- 園外保育実地踏査チェック表・・・・・・・・別紙2
- 園外保育実施結果報告書・・・・・・・・別紙3

1 園外保育目的・実施基準

(1) 園外保育目的

園外保育をとおして自然や社会について興味や関心をもち、社会のルール・マナーを知る。

(2) 園外保育実施基準

実施にあたっては『園外保育マニュアル』を基準とし活用する。

1) 目的地の選定

- ①子どもの心身の発達段階に見合った目的地、経路、時間を選定する。
- ②道路や交通の状況を考慮し、より安全な経路を選択する。
- ③当日の天候や状況の変化に合わせて目的地の変更も含め検討する。

2) 目的地での活動内容

子どもの心身の発達段階を踏まえ安全に留意し、目的に合った活動をする。

3) 引率体制

複数での引率を基本とし、交通手段を利用する場合は、担任以外に2人以上付き添うこととする。

4) 保育園の体制

園外保育実施日は、緊急対応できる体制をとる。

2 徒歩で移動する場合の配慮

	保育士の配慮	着眼点
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的に余裕のある計画を立てる。 ・道路や交通の状況を考慮し、より安全な経路を選択する。 ・散歩用リュックを用意し、持ち物の点検をする。 ※1 ・子どもの体調を把握する。 ・トイレに行くよう声を掛ける。 ・子どもに行き先や目的、注意事項を話す。 ※2 ・活動にふさわしい衣服を着ているか確認する。 ※3 ・指定の散歩届に行き先、人数等を記入し報告する。 <p>保育士はビブスを着用する。枚数が足りない場合は、最低でも前後に付く保育士は着用する。</p>	<p>※1 持ち物(リュックの中の常備品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数チェック用紙 ・筆記用具、メモ帳 ・ビニール袋 ・着替え ・救護用品 ・ペットボトルの水 ・防犯ブザーまたは笛(手元に持つ) ・散歩マップと公園などの住所一覧(救急車要請時に使用) <p>*年齢に応じて必要な物(オムツ、おんぶ紐等)</p>
出発時	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず複数の保育士が引率する。 ・リーダーを決める。他の引率者はリーダーの指示に従いリーダーの補佐をする。 ・保育士の履物は、サンダルなどではなく、緊急時に対応できるものとする。 ・靴のサイズ、履き方を確認する。 ・引率者以外の職員に人数を確認してもらう。(チェック用紙) ・点呼の仕方に配慮する。 ※4 ・保育士同士、声を掛け合い出発する。 <p>《遠足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足の場合は、カメラで子どもの姿を撮影し、帰園まで保存する。(着替えた際は再度写真を撮る) ※5 ・保護者に記入してもらった遠足カードを確認し、保育園に置いていく。 	<p>※2 注意事項(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふざけないで歩く。 ・前を向いて歩く。 ・ごみ箱、電柱、側溝などに気をつける。 ・友達の後ろについて歩く。 ・車や自転車が来たら注意する。 ・有刺鉄線や植え込みに触らない。 ・危険物(車、自転車、バイク、看板等)に触れない。 <p>※3 確認事項(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンパーのファスナーを閉める。 ・ズボンの裾を引きずっていない。 ・袖から手が出ている。 ・カラー帽子をかぶっている。 ・フードのある服やスカート、スカートズボンは着用しない。 ・リュックにキーホルダー等がついていない。 <p>※4 大きな声で名前を呼ばない。(個人情報に気をつける)</p> <p>※5 服装、リュック、靴を撮影する。</p>
移動時	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は先頭(リーダー)と最後尾(サブ)を基本とし、全体に目配りし、保育士が車道側を歩く。 ・先頭の保育士は、電柱、障害物、側溝などに気をつけ、列が離れないように子どもに声を掛けながら歩く。 ・移動中も引率漏れがないように、常に子どもの行動に注意する。 ・年齢に応じた歩かせ方をし、基本的に2列で右側を通行する。 ・白線がある場合は白線内を歩かせる。白線がない場合は、道路の右側を歩かせる。 ・車や自転車が来たら、保育士は互いに声を掛け合い、立ち止まって子どもを道路の端に寄せる。 ・曲がり角は立ち止まって安全を確認してから行動する。 ・止むを得ず行き先・経路などを変更する場合は、必ず園に報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事現場付近を通る際は係員の誘導に従う。 ・道路を横断する時は横断歩道を渡り、付き添いの保育士が連携をとって子どもを誘導する。 ・信号が青になったことを確認して渡り、無理な横断はしない。 ・踏み切りを渡る際は、線路の段差に気をつける。 ・警報機が鳴ったら渡らない。 ・踏み切りを渡っている途中で警報機が鳴った場合は、落ち着いて子どもを誘導する。(子どもを慌てさせない。) ・横断歩道や踏切で待つ際は、乗り物の進路から少し離れた安全な場所で待機する。 ・歩道橋は右側を歩き、友達を押しついたりしないように注意する。 ・階段では一列に並んで上り下りし、前の友だちを押すなどの危険がないように注意する。 ・沿道の有刺鉄線や植え込み等に気をつける。 ・通り沿いの近隣住宅のものには触れないようにする。

	保育士の配慮	着眼点
活動時	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地に着いたら、複数で人数を確認する。(チェック用紙) ・出発後、止むを得ず行き先、経路などを変更する場合は、必ず園に報告する。 ・危険物又は、糞やたばこ等がないか、子どもたちを遊ばせる前に確認する。 ・危険箇所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナー等を保育士同士確認し子どもに話をする。 ・保育士は、立ち位置や役割を決め連携を取りながら保育に当たる。 ・保育士は固定遊具の側に付く。 ・保育士は、子どもの動きに常時目を配り、約束を守って遊んでいるか等、保育士同士、声を掛け合いながら見る。 ・園児以外の子の遊びに配慮し、小さい子への注意を促す。 ・不審者がいないか、常時目を配る。不審者と思われる人がいた場合、速やかにその場を離れ、必要に応じて110番通報をする。 ・トイレに行く場合、遊び場を変更する際は保育士同士、声を掛け合う。 ・トイレに行くときは必ず保育士が付いて行き、トイレ内の安全を確認すると共に鍵はかけさせない。 ・暑いときは、水分補給をさせる。 ・グループ別に行動する場合は、自分のグループの子どもを把握し、保育士同士で声を掛け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 遊べる範囲・遊具の使い方などの約束 <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を拾わない。 ・動物には触らない。 ・拾った棒などを振り回さない。または、拾わない。 ・知らない人に声を掛けられても付いて行かない。 ・保育士が見えるところで遊ぶ。 ・保育士に呼ばれたらすぐに戻る。 ・園児以外の子に(特に小さい子に)注意して遊ぶ。 ・道路へは出ていかない。
帰園時	<ul style="list-style-type: none"> ・帰園時は子どもたちに注意事項を話し、複数の保育士で、人数を確認し帰園する。(チェック用紙) ※1 ・子どもの疲労度を考慮し、慌てて帰ることがないように時間に余裕を持つ。 ・疲れが出て、歩き方が乱れるので、子どもの歩き方に気をつける。 ・点呼の仕方に配慮する。 ※2 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 確認事項(例) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが何か握っていないか。 ・リュックや上着など忘れ物はないか。 ※1 注意事項(例) <ul style="list-style-type: none"> ・ふざけないで歩く。 ・前を向いて歩く。 ・ごみ箱、電柱、側溝などに気をつける。 ・友達の後ろについて歩く。 ・車、自転車が来たら注意する。 ・有刺鉄線や植え込みに触らない。 ・危険物(車、自転車、バイク、看板等)に触れない。 ※2 大きな声で名前を呼ばない。(個人情報に気をつける。)
帰園後	<ul style="list-style-type: none"> ・引率者以外の職員にも人数を確認してもらおう。(チェック用紙) ・点呼の仕方に配慮する。 ※2 ・帰園したことを報告すると共に散歩用紙に記入する。 ・個々の体調、怪我等の様子に目を配る。 ・水分補給をさせる。 ・水筒を持参した場合、中身を処分する。 	

3 乗り物を利用する場合の配慮

	保育士の配慮	着眼点
電車	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物を利用する場合、子どもたちに注意事項を話す。 ※1 ・基本的に駅のエレベーターやエスカレーターは使用せずに階段を使う。 ・乗降する際は電車とホームの間に気をつけ、保育士は先頭、ドア、最後尾に付き、子どもの安全を確保する。 (必ず、子どもの手を取り乗降させる) ・他の乗客の迷惑にならないように配慮する。ホーム、車両は乗客が少ないところを利用する。 ・車両内では子どもをクラス又は、グループごとにまとめ、保育士は分担して子どもの所在を把握する。 ・席が空いていたら座らせる。その際、深く座れるようにし、リュック等は降ろす。子どものリュックなどの荷物は、電車に乗っている時間、混み具合を見て棚などに乗せるよう考慮する。 また、座れない子は支柱につかまらせ、保育士が側に付く。 ・ドア付近に子どもを立たせる時は、戸袋に手を引き込まれないように注意する。 ・汚れた衣服で乗り物に乗せない。 	<ul style="list-style-type: none"> ※1 注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・騒がない。 ・靴で座席を汚さない。 ・勝手に席を立たない。 ・立ち歩かない。
借上バス	<ul style="list-style-type: none"> ・出発する前に子どもたちに注意事項を話す。 ※1 ・乗降時は、人数確認をする。 ・乗降の際は、先頭、中間、最後尾に保育士が付き子どもが道路に飛び出さないよう注意する。 ・補助席、後部座席の中央に止むを得ず子どもを座らせる場合は、保育士が側に付く。 ・シートベルトを締めているか、確認する。 ・車酔いする子は前座席に座らせ、看護師または保育士が付き添う。 ・忘れ物がないか確認して降りる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※1 注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・乗降の際は、慌てず順番を守る。 ・走行中はシートベルトを外さない。 ・勝手に席を立たない。 ・靴で座席を汚さない。 ・気分が悪くなったら、側にいる保育士に伝える。 ・窓から手や顔を出さない。

	保育士の配慮	着眼点
ベビーカー・サークル車	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル車に子どもを乗せる際、カタログに記載されている乗車定員や重量制限を参考にし安全に配慮する。 ・使用前に点検を行う。 ※1 ・月齢、体重、子どもの個性を考慮して乗せる。 ・片側に寄らないように気をつける。 ・サークル車から離れない。 止むを得ず離れる時は、他の保育士にそばに付いてもらう。 ・身長の高い子は身を乗り出すと落ちる危険があるので気をつける。 ・サークル車は、段差や坂道などで負荷がかかり、急に動き出したりバランスを崩して倒れやすくなることがあるので十分注意する。 ・乗り降りや停車時は、必ずストッパーをかける。 ・乗降の為に停車する時は、できるだけコンクリートの部分を避け、平らな所で行う。(万が一の転落、転倒の際の衝撃を考慮する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ※1 点検確認 <ul style="list-style-type: none"> ・常時、タイヤの摩擦、車輪のきしみ、動きなどを点検して、メンテナンスを行う。 ・危険な部分がないか点検する。

4 事故及び災害時の対応

1 事故発生時

- ・ 保育士は、当該園児に対応する者、他の園児の安全確保にあたる者、緊急連絡を行う者に分かれて対応する。緊急連絡を行う者は、状況に応じて、119番や110番に要請をすると共に保育園へ連絡する。
- ・ 事故後の対応について園長の指示を仰ぐ。

2 災害発生時

- ・ 地震が発生した場合は園児を一箇所に集め、揺れがおさまったら安全な場所に避難する。
- ・ 怪我人がでた場合は状況に応じて役割分担をし、応急手当や他の園児の安全確保、緊急連絡を行う。
- ・ 帰りの交通手段がない場合は、最寄りの行政機関の協力を得て、避難場所を確保する。
- ・ 大きな災害時、連絡不通、不能な状況に当たっては安全な場所、近くの広域避難場所にて迎えを待つようにする。その際 子どもがパニックにならないよう配慮し、近くの人に応援、協力を依頼する。

3 行方不明児発生時

- ・ 残りの園児の安全確保をする者、緊急連絡を行う者を決め、連絡担当者は保育園に連絡する。
- ・ 行方不明になった子どもの服装を確認する。
- ・ 残りの園児の安全確保を行う者以外の引率者は、近くにいる人の協力を得て不明になった子どもを探す。
- ・ 必要な場合は連絡担当者が110番通報する。

4 不審者対応

- ・ 『保育園の安全管理マニュアル』参照

5 保育者緊急時対応

- ・ 『保育園の安全管理マニュアル』（園外保育の際の緊急事態対応のフローチャート）参照

6 その他

- ・ マニュアルについては、毎年見直しを行い、必要に応じて改善していく。

5 怪我の状態や病状による対応

程度	軽度	中程度	重度
怪我の状態・病状	・擦り傷、切り傷	<ul style="list-style-type: none"> ・捻挫や打撲等、創部を安静に保ちたい時 ・喘息発作や急な発熱時 ・徒歩での帰園が不安な時 ・受傷後の応急処置では不安な時 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や転落等による多量の出血がある時 ・頭部打撲等による意識の朦朧や痙攣のある時 ・激しい痛みや変形や腫れ等、骨折が疑われる時 ・動かす事により、状況の悪化もしくは生命の危険や著しい後遺症等が考えられる場合
その場の対応	・応急処置をする	<ul style="list-style-type: none"> ・園に状況を連絡して迎えを待つ。 <p>※保育士は、立ち位置などや役割を決め、対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園に連絡を入れ、その場で救急車を呼ぶ。 ・救急車には職員1人が怪我人に付き添って乗車する。 ・搬送先の病院が決まったら園に連絡をする。 ・保護者が病院に来るのを待って、状況を伝える。 <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他児の安全を確保する。 ・時間を確認してメモをとる。 ・状況により周りの人の協力を得る。 ・連絡する手段が無い時は、近くの店や周囲の人に協力を求め、電話などを借りる。
帰園方法	・通常の通り	<ul style="list-style-type: none"> ・迎えに来る人を待ち、怪我人に1人が付添い、他の園児とは別に帰園する。 ・他の園児の帰園に際しても、必ず複数の職員がつく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の園児の帰園に際しても、必ず複数の職員がつく。
園の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・帰園後に報告を受ける ・傷を確認する ・必要時処置を施す 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡を受けたら園長(又はそれに代わる者以下「園長」)に連絡し、その指示により正規職員を迎えに出す。 ・受傷の場合は傷の状態を確認して、受診の有無を判断する。 ・子どもの状態により、バギーやサークル車等で迎えに行き、帰園後、子どもの状態により、保護者に連絡する。 ・受診が必要な傷の場合は、保護者に連絡をした後、タクシーで迎えに行きそのまま病院に向かう。(災害カード等受診に必要なものを持って行く。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡を受けたら園長(又はそれに代わる者以下「園長」)に連絡し、その指示により正規職員を迎えに出す。 ・連絡を受けた時点から、経過を時系列でメモしておく。 ・救急車を要請した旨、幼児教育・保育課に連絡し、保護者にも連絡する。 ・搬送先の病院が決定し連絡を受けたら、保護者に連絡して、病院に向かってもらう。

6 園での備え・事故後の対応

日頃の行動・備え

- ・ 行き先や経路の変更、その他必要に応じて園に連絡を入れることを習慣付けておく。
- ・ 万一の事故に備え、緊急時の行動を確認しておく。
- ・ 園長は常に連絡が取れるようにしておく。
- ・ 園長、副園長、看護師が不在の場合でも慌てないよう、責任者を決めておく。

事故後の対応

- ・ 事故について、速やかに全職員に報告する。
- ・ 怪我をした子どもの保護者への対応は十分に配慮して行う。
 - * 状況の説明等の際の留意点
 - ・ 保護者の都合を聞き、落ち着いて話ができる場を設ける。
 - ・ 説明に同席する相手(父・母・両親・祖父母など)を確認しておく。
 - ・ 複数の職員で対応する。
 - ・ 説明の内容と順序、役割分担を確認しておく。
- ・ 速やかに園内リスク会議を行い、事故前後の分析をし、全職員の意思統一を図る。
- ・ 事故報告書を作成する。
- ・ 他の保護者に動揺を与えないよう、問い合わせへの対応は決まった人が行う。

7 事前準備及び事務手続き

1 『園外保育実施計画書』を作成する。(別紙1)

※資金前途が必要な場合は、起案作成

2 実地踏査

- (1) 実地踏査は遠足実施のおおむね1か月前までに実施する。
- (2) 実地踏査は、計画担当者と引率職員1人で行い、実施予定時間と同時間帯に行うのが望ましい。
- (3) 経路、現地の情報収集をし、『園外保育実地踏査チェック表』に記入する。(別紙2)
 - ・危険箇所、不審者情報、近年の事故の有無、自然状況、近隣の医療機関等を把握する。
 - ・電車の場合・・・利用駅のホーム、乗降客の状況等を把握する。
 - ・バスの場合・・・道路状況、駐車場等を把握する。
 - ・時間、順路、トイレ、昼食場所等の確認をする。

3 『園外保育実施計画書』の確定

- ・実地踏査後、変更があれば『園外保育実施計画書』の記載内容を修正する。(別紙1)

4 事前準備

(1) 職員

- ・計画担当者がリーダーとなり引率者全員で打ち合わせを行う。
- ・『園外保育マニュアル』の内容を確認する。

(2) 児童への指導

- ・子どもたちと事前に遠足のイメージ、約束事などを共有する。

(2) 保護者への周知・対応

- ・「遠足実施のお知らせ」等を作成する。(遠足カード等を添付)
 - *園外保育に備え、家庭での生活面におけるの注意事項などを保護者に周知する。
 - *はき慣れた靴、動きやすい服装での参加、持ち物等についてするようにお願いする。
- ・車酔いや健康面等、必要に応じ事前に保護者との打ち合わせをする。

5 遠足終了後、園外保育を振り返り、反省・改善点等を『園外保育実施結果報告書』に記入する。(別紙3)

年度

保育園 園外保育実施計画書

別紙 1

*雨天時の計画は別紙にて立てる

実施日	月 日 曜日	雨天延期日	月 日 曜日
目的地		実施予定時間	
目的・内容		歳児 名 引率者	
		歳児 名 引率者	
行 程			
時間推移	子供の活動	保育者の関わり・配慮	留意点
帰園後の動き			
事前準備とお願い事項			

持ち物分担（担当者名の下にチェックをする）

持ち物分担	担当者名			
1、救急用品				
2、エチケット袋				
3、ハンドソープ				
4、タオル				
5、個別の預かり薬				
6、トイレトペーパー				
7、着替え予備				
8、ビニール袋				
9、ゴミ袋				
10、カメラ				
11、おやつ				
12、防犯用ブザーまたは笛				
13、人数チェック用紙				
14、地図(パンフレット全員)				
15、筆記用具、メモ帳				
16、前渡金				
17、携帯電話				
18、タクシー券				
19、ペットボトルの水				

交通経路と交通費

行き 園出発 : / 駅発(バス・電車) : / 駅着 :
 乗り換え 駅発(バス・電車) : / 駅着 :
 目的地着 : 予定

帰り 現地出発 : / 駅発(バス・電車) : / 駅着 :
 乗り換え 駅発(バス・電車) : / 駅着 :
 園着 : 予定

交通費

備考

こども	円	×	人	=	円
	円	×	人	=	円
大人	円	×	人	=	円
	円	×	人	=	円
合計					円

園外保育実地踏査チェック表

園外保育 予定日	年 月 日 ()	目的地	
実地踏査 実施日	年 月 日 ()	実施者	責任者名 他 名
交通経路			

内 容		チェック	備考
1	コース全体の確認(地図やパンフレット上にトレース)		
2	パンフレットを人数分もらう		
3	トイレの確認(地図やパンフレットなどにチェック) 目的地での昼食場所、活動予定場所の確認(地図やパンフレットなどにチェック)		
4	危険箇所の確認(地図にチェック)		
5	子ども集団と保育者の位置の確認	遊ぶとき	
		昼食時	
		移動中	
		トイレ	
		()	
6	園～駅:危険箇所(歩道のない箇所・横断歩道等)の確認(地図やパンフレットなどにチェック)		
7	電車の時刻、混み具合、乗り継ぎ、運賃を確認し、駅に利用予定日の連絡をする		
8	駅構内の確認(切符を買っている間の待機場所・階段やエスカレーター的位置・トイレ・非常ベル等)		
9	ホームでの待機場所・危険箇所・乗車位置・非常ベルの確認		
10	電車内での立ち位置の確認		
11	バスの場合、乗降場所や目的地までの経路確認、危険箇所・時間の確認		
12	緊急発生時の体制・対応・役割の確認 (打ち合わせとフローチャートでの確認)		打ち合わせ日(月 日 曜日)
13	緊急連絡先(公園事務所・交番・公衆電話等)の位置確認(地図やパンフレットなどにチェック)		
14	近くの医療機関(外科・整形外科・総合病院)の確認 (地図やパンフレットなどにチェック)		
15	天候の変化に伴う目的地の環境変化(増水・山崩れなど)の可能性の確認		
16	バス会社(運転手)との連絡		
17	利用施設に利用日を告げる		
	(利用申し込み用紙・料金の確認)		
18	利用施設の団体予約の状況確認		

★別紙に地図を貼り表項目をチェックすること

園外保育実施結果報告書

別紙3

実施日		参加園児数	歳児	名
出発時間			歳児	名
帰園時間			歳児	名
			合計	名
目的地		引率者名		
『園外保育実施計画書』からの変更点と変更した理由				
遠足の成果 ・良かった点				
遠足の反省 ・改善点				
その他 特記事項等				